

下気道感染症について

下気道のどこかに微生物（ウイルス、細菌 など）の感染がおきて、症状をきたす疾患群です。症状としては咳、痰、呼吸苦、胸痛などがあります。肺炎であることを除外することが重要なため、場合によっては詳細な検査が必要です。

大事なこと

- ✓ 細菌感染症には抗菌薬治療が効果あり。
- ✓ ウイルス感染症に対する治療の基本は対症療法（症状をとる治療、ウイルスの種類によっては抗ウイルス薬を用いる）。
- ✓ 肺炎が重症化すると命に関わる。肺炎は日本人における死因の第3位。
- ✓ 発熱、頻脈、呼吸数増加、酸素化低下などのバイタルサインの異常があり、改善を認めない場合は入院加療が必要。
- ✓ 肺炎に関してはワクチンによる感染予防および、誤嚥を防ぐための嚥下リハビリテーションが重要。

- ・上気道感染症の症状（しゃみ、鼻汁、鼻づまり）があっても、咳や痰が多い時は下気道感染症も疑う。
- ・新興感染症によるものが増えてきている：COVID-19（コロナ）、SARS、鳥インフルエンザ など。ほとんどが人獣共通感染症。
- ・細菌性感染症には抗菌薬が有効。しかし、近年では抗菌薬耐性化が広がり、市中肺炎が難治化する可能性がある。
- ・超高齢社会において、誤嚥性肺炎を含めた高齢者の肺炎が増えてきている。

・考えられる疾患（上気道感染症に属する疾患）とその治療

- ① **急性気管支炎**：肺に至る気管～気管支の感染症。90%以上がウイルス感染症。まれに細菌感染。
治療：対症療法（症状をとる治療）。細菌性気管支炎を疑う場合は抗菌薬治療が必要。
- ② **急性細気管支炎**：2歳以下の乳児（特に6カ月前後）に好発、特に冬に多い。主にウイルス感染症。
治療：対症療法。場合によっては酸素吸入、補液、ネブライザーによる吸入 が必要
- ③ **肺炎**：様々な原因で肺に炎症が起こる病気。日本人の死因の第3位。
治療：原因に対する治療を行うことが大事（診断が重要）。細菌性肺炎には抗菌薬が有効。ウイルス性肺炎には対症療法（場合によっては抗ウイルス薬）。誤嚥による肺炎は口腔ケアや誤嚥への対策が重要。場合によっては酸素吸入、入院による全身管理、気管挿管 が必要になる。

・気を付けておいてほしいこと

高齢、呼吸器疾患既往、抗癌剤治療中などの免疫力が落ちている方は重症化する可能性もあります。

いつもの風邪と違う、呼吸苦がある、よくわからないけど熱がある、などの場合はご相談下さい。

